

# おおきくな〜れ

2012 (H24)  
3/15

No. 10

石山小学校  
保健室

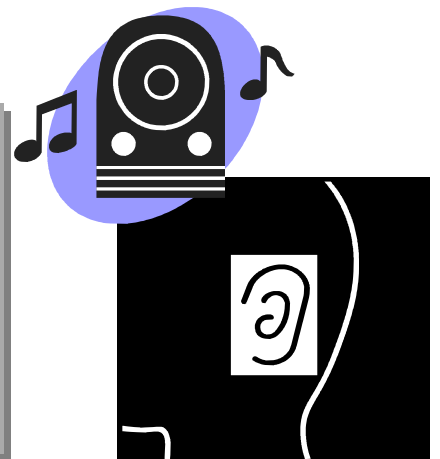
まだまだ風は冷たいですが、少しずつ寒さもやわらいで  
きました。6年のみなさんご卒業おめでとうございます。

4月から新しい一年がはじまりますね。うまくスタート  
が切れるように、この一年間で、できたこと、できなかった  
ことを自分なりに振り返ってみましょう。



## 夢中になると聞こえない？！

私たちの耳は不思議です。同じ音でも、ある時は楽しく感じるのに、別の時にはうるさく感じる場合があります。気分や体調によって、音の感じ方もかわるのです。また、何かに熱中していると、まわりの音が耳に入らないこともあります。呼んでも返事をしないとか、危ない目にあって注意されたことはありませんか？特に道路を歩くときは、おしゃべりや遊びに夢中にならないよう、耳をよく働かせて、十分気をつけてくださいね。



おうちの方へ

保健室からの…**つ・ぶ・や・き**

未曾有の大災害となった東日本大震災から1年がたちました。

あの日、大津も震度3だったようですが、保健室（1階）にいた私は、まったく揺れを感じませんでした。2時間ほどして、保健室に来られた先生が「東北地方で大きな地震があった。日本が大変なことになりそうや。」と教えてくださるまで、全く知らなかったのです。その先生の言葉も、にわかには信じられず、テレビのニュースで津波襲来の映像を見てはじめて、本当に大変なことが起こったと理解しました。でも、正直、自分とは遠く離れたところで起こった出来事にしか思えません。2日程して、テレビに、避難所になっている学校の保健室が映し出された時、『私があの場合にいたらどう行動しているだろう…』と、やっと少し自分のこととして考えることができました。自分なら、避難誘導はちゃんとできただろうか、手当が必要な人に何ができるだろう、まずは自分の身はどうやって守るだろう…。その後も折にふれ、自分なら…と考えてはみるものの、結局、我が身に起こっても的確に動けるぞというほど頭の中でシミュレーションできずにいました。

先日、兵庫県の養護の先生で宮城県の高校に派遣されている方の話を聞く機会がありました。その中で印象的だったのが、「現地の先生方から『津波から身を守るためには、1秒でも早く、1cmでも遠く、1段でも高くへ逃げること。1秒、1cm、1段が生死を分けることもある。』と教わった。」というお話です。1秒早く行動に移せたら、1cmでも遠くに手を伸ばせたら、1段高く階段を登っていたら、助かった命がたくさんあったのだと思います。今までなかなかシミュレーションできなかった災害現場での動きを考えてみることもできました。昨年7月の地区別懇談会で阪神淡路大震災時の貴重な体験をお聞きした時にも感じたのですが、やはり現場の生の声を聞くって大事だなと思いました。

学校でも万が一に備えて、防災教育の一貫で避難訓練や町別集団下校などを行っていますが、見ているとまだまだやらされている感が強いように思います。被災体験がないと自分は大丈夫だと思ってしまいがちです。でも、起こってからでは遅いのです。我が身に起こったら…と少しでも自分のこととして考えられるよう指導の工夫をしなければと思います。命の大切さを実感し、それを守るために臨機応変に判断・対応できる力を育てていきたいです。

この機会におうちでも話題にしていただけると幸いです。